

留学体験記 ～現地の実態～

この報告書を読んでいるということは留学を決意されている方々だと思うので、私が現地で感じた事を記し、少しでも事前準備の足しになればと思う。

1,気候と衣服

現地に着き最初に感じたことは「暑い」だ。私たちが到着する前日は40度を超えたらしい。私たちが過ごした3週間も主に30度を越していた。しかし現地は日本と違い乾燥している。38度の日もあったが日本の真夏ほど暑いとは感じなかった。しかし日が沈むと肌寒くなり、軽く羽織える物があると良いと思った。夜も肌寒く、寝巻きは半袖長ズボンで過ごしていた。日中は半袖半ズボンで過ごしていたが、私のホームステイ先は洗濯が週1なので8日分の洋服が必要であった。時期は夏であるが雨が降る日もあった。折りたたみ傘くらいは持っていった方が良い。

2,ホームステイ宅

ホストファミリーは父、母、姉(8歳)、弟(5歳)の四人家族であった。今回の留学は1人もしくは2人ペアでお世話になる。ホームステイ先は電気科2年田中先輩と同じだった。そして台湾から来た留学生(26歳)と計7人で過ごした。ホストファミリーはとても良い人で、素晴らしい3週間を過ごせた。台湾の留学生も良い人で、夕食後3人でワインを飲みながら楽しく談笑したり、パソコンでWBCの試合観戦などをした。

子供達はとても活発で我々にタックルを仕掛けてきたり、銀行強盗ごっこなどをした。最初の間は懐いてきてくれて嬉しかったが1週間も経つと正直めんどくさい。子供好きの人はオススメするが嫌いな人はカーティン大学宛の備考欄に予め書く事を推奨する。

ホームステイ先は私が期待していた程広くなく、こぢんまりとした家であった。他の人はプールがあったりしたようだ。正直とても羨ましかった。しかし、とても明るく楽しいホームステイ先であった。

私は運良く環境の良いホームステイ先選ばれた。しかし色々な友達の話を見ると「ホストファミリーが冷たい」や「休日は毎日どこかへ連れて行ってくれる」など私よりも環境が良い、悪いホームステイ先があった。



写真1:いつも走り回っているので撮れない。2人正面のベストショット。

イ先があるらしい。これに関しては皆さんの運と現地での忍耐力なので頑張っていたきたい。
ホームステイ先からはバス→電車→バスで1時間弱かかった。

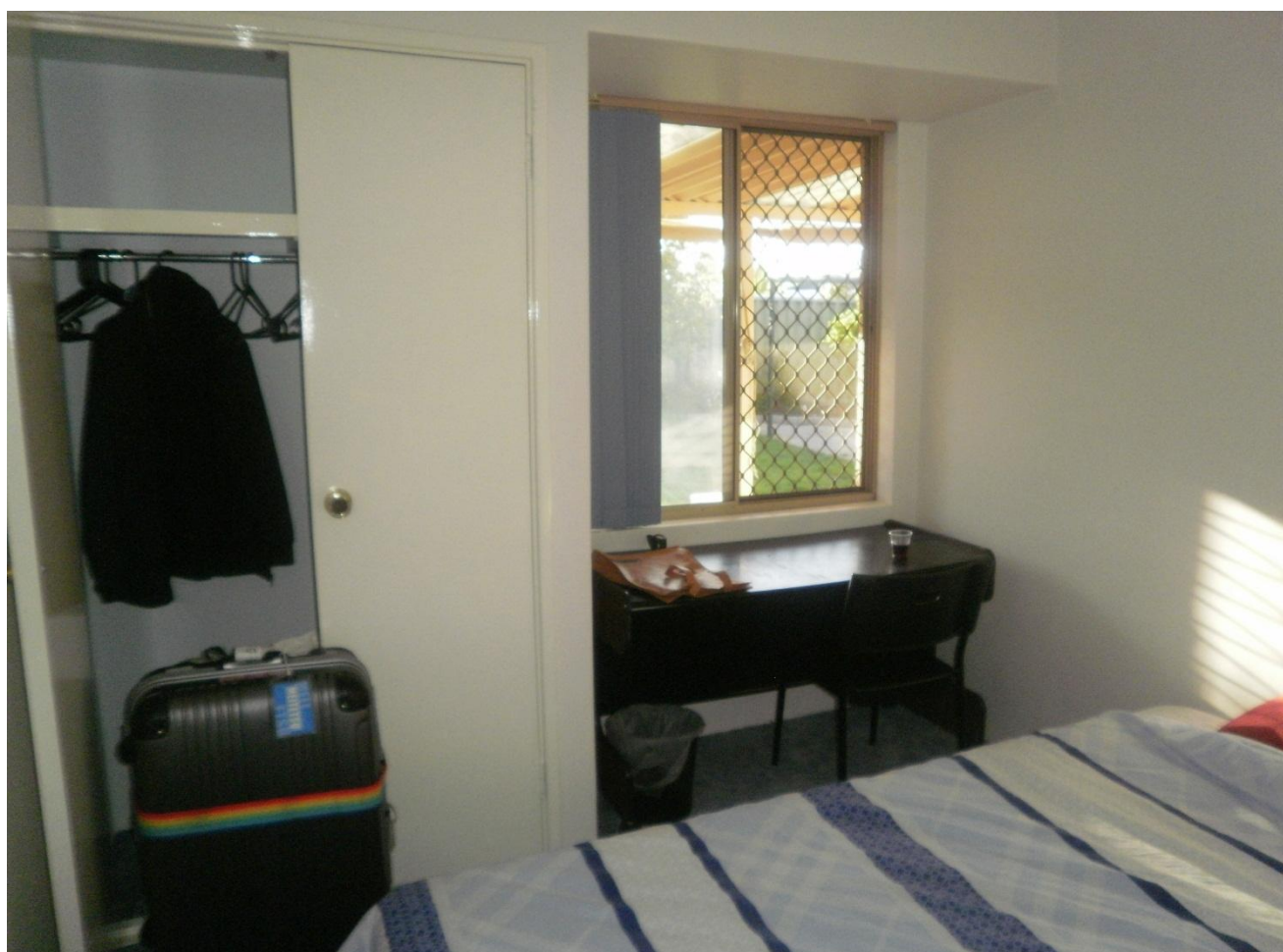


写真2:私の部屋。ベッドと机のおかげで絨毯の上にスーツケースが開けられない。
他の人はテレビやトイレなど完備されていた部屋もあったらしい…。

3,大学校内と授業

校内はとにかく大きい。広い。でかい。授業で移動クラスがあるたび迷子になっていた。広い校内にはBARや映画館(屋外に大きなスクリーンとちょっとした座席)などがあった。こっちの法律では18歳で飲酒ができる。当時18の私は教師の前で堂々と飲むことができた。

授業は日本で受けたテスト結果で予め別れている。私のクラスは18人くらいで、日本人7人(都市大生4人)であった。とても国籍豊かだが、私にはとても区別が付かなかった。目しか出せない衣装を纏った女性や黒人の可愛い顔した兄ちゃん、明らかなオバちゃん、どう見ても高校生など。

授業は完了進行形(have been doing)を学んだ。授業の会話はもちろん英語。挨拶から授業の説明、解答、解説まで全部英語。問題はわかるが解説がわからないことがしばしばあった。授業は対話式で先生がよく意見を求めてくる。私は頑張って単語で伝えようとしたり、笑ってごまかそうとした。

クラスにいる外国人は英語が話せるのに文法がわかっていない。しかし日本人は文法がわかるのに英語が話せないということに気づいた。

4,観光と交通手段

主にメジャーな観光地はパース市内とフリーマントル周辺。こっちの国では水が貴重な資源なので買うことになる。マックに行っても水はもらえないので注意。街中で主に\$3で売っている。フリーマントルは物価が安い。全く同じ商品なのにフリーマントルとパースでは値段が違うことがよくある。しかし品質状態はフリーマントルの方がひどいので要注意。フリーマントルで見つけたウォンバットのぬいぐるみは背中から綿が出ていた。日本では考えられないことがしばしばある。

フリーマントルには謎の銅像が多く見られる。日本の考える人のようにベンチに腰掛けていたり、街中に立っていたりする。普通に撮るぶんには問題ないが、2ショットとなると外人に笑われる為気をつけるべし。



写真3:銅像との2ショット



写真4:パース駅。電車の乗り降りは相模線同様、ボタンを押さなければならない。

移動手段は主にバス。電車も使うが日本ほど本数は多くない。休日は15～20分に1本くらいの割合だ。主にバスで移動するのだがバス停に立っているだけでは永遠に乗れない。乗りたいバスが来たら手を横に上げなければならない。しかしそれでもバスが止まらないことがある。バス内が非常に混んでいると運転手と目があっても通過されてしまう。オーストラリアでは時間に余裕のある生活をおくることが大切だ。バスの時刻表はバス停によっては書いてないところがあるので、事前にネットで調べなければならない。



写真5:カーティン大学のバス停。
とても細かく丁寧に時刻表が記されている。

写真6:家から近いバス停。
時刻表がない為、事前に調べるか
ひたすら待つかの2択。



5,その他

色々な事があったが書ききれないため箇条書きで報告したいと思う。

- ・ホームステイ先の子供達へ、お土産はポケモンやキティが喜ばれた。けん玉は使い方を知らず、玉と本体を繋げている糸を引きちぎって遊んでいた。
- ・携帯が使えないのでレンタル Wi-Fi を持っていくか悩んだが、大学に Wi-Fi が完備されているため以外に必要を感じなかった。
- ・マックでは¥ 30 でアイスクリームが変える。さらに¥ 50 払うと 10cm 程のチョコスティックがついてくる。
- ・ショッピングモールなどの店は 17 時に閉まる。
- ・カーティン大学には日本人留学生が意外と多い。都市大以外にも和歌山、追手門、東洋大学などから来ていた。
- ・靴一足と他にサンダルもしくはクロックスがあると便利だと感じた。
- ・帰国時、お土産にカンガルージャーキーを持って帰れた。スーツケースの中だと問題はないらしい。
- ・英語は話せないが、なんやかんや単語で会話ができてしまう。
- ・日焼け止め、サングラス、帽子はマストアイテムだ。日本から持っていかないと向こうで買うはめになる。

6 感想

今回の留学を一言で纏めると「疲れた」である。人それぞれ感じることは違うと思う。他の人たちは「楽しかった」や「感動した」とも言っているが、私的には非常に疲れる過酷な経験だった。しかしそれゆえに得る物は多く、日本では感じる事の無い文化、味わうことができない経験をする事ができた。人生観が変わるほどではないが価値観は変わった。とても素晴らしい経験をしたと、今振り返れば思う。傍から見れば短い3週間だが、実際に現地へ行くと長く濃い3週間である。日本でバイトに追われる生活よりも、遥かにもっと有意義な時間を過ごせる。私はこの経験をから、さらに自ら過酷な道に飛び込み、自分のスキルアップを目指そうと考えたようになった。今後、さらに色々な事に挑戦していきたいと思う。